

2014 年度第 5 回 長崎大学経済学部ファカルティセミナー

2014 年度第 5 回長崎大学経済学部ファカルティセミナーを以下の要領で行います。教職員、大学院生、学生の参加をお待ちしています。

日時：2014 年 12 月 1 日（月） 16:10～17:40

場所：本館 23 教室（いつもと教室が異なるのでご注意ください）

報告者：宇都宮 譲（長崎大学経済学部）

報告タイトル：

なにがどこにいつからあるのか？

タイ王国における製造業立地と操業年数

要旨：

本報告は、タイ王国（以下、「タイ」）における産業立地および操業年数について検討することを目的とする。

タイに成立する産業クラスタに言及する研究は、数多い。しかしながら、いかなる産業あるいは企業が、いかなる地域に立地しまた何年継続して操業するか、具体的に検討する研究は稀である。

タイにおいては従来、政策的に地方へと企業誘致が進められてきた。すなわち、BOI（投資委員会）が設定した 3 ゾーン毎に恩典を変えることで、より経済発展を必要とする地方へと産業を誘致しようとしてきたのである。1972 年以來こうした政策が継続してきたが、2015 年から政策転換が実施されることになっている。

本報告は、タイ工業センサス（2007 年度版）を用いて、6 地域（バンコク都、バンコク都周辺、中部、北部、東北部、南部）に、いかなる産業が立地するかを検討する。対象産業数は、当該統計による中分類 23 産業を構成する製造業である。

検討した結果、以下 3 点が明らかになった。第一、バンコク圏と称するべき地域とその他とで、産業構成が異なる。特に、東北部は、他とはまったく産業構成が異なることが明らかになった。第二、BOI が従来実施してきた企業誘致策は、必ずしも効果を発揮しなかった。多くの企業は、バンコク圏を好む。第三、操業年数 20 年程度を境に、企業数が減少する。

おわりに、上記結果から得られる含意および今後の課題について、若干見解を示す。

ファカルティセミナーでの報告を希望される方は、研究委員会ファカルティセミナー担当者（大倉）までご連絡下さい（メール：okura@nagasaki-u.ac.jp 内線：328）。また外部者による報告も受け付けています。